



発行所 岡山県立笠岡高等学校 同窓会 岡山県笠岡市笠岡3073の2 事務局 0865(62)5128 印刷 正文社印刷所

創立百十年を迎えさらなる飛躍を



同窓会会長 古山泰生

笠岡高校同窓会の皆様には、日頃から伝統ある本校の飛躍・発展のため、格別のご支援とご尽力を賜っており、厚く御礼申し上げます。本年十月五日に伝統ある本校は創立百十年という記念すべき節目を迎えることとなります。

岡山県が生んだ最初の総理大臣である犬養木堂翁が小田原庁(現笠岡小学校敷地)に勤められていたという事実はあまり知られていませんが、その時に培われた哲学や洋学への思い入れがあればこそ、歴史に残る偉大な政治家として開花したと言われております。それを育んだのが、笠岡地域の教育的土壌であり、広く考えれば、「未見の我を知る」という本校の建学に至る基本的な考え方に起因しているのです。本校は、平成十一年の中学区制への移行により、笠岡地域のみならず井原、矢掛地域も含めた県西部の雄校として、毎年約半数の生徒が国立大学に進学する

など素晴らしい成果とともに、同窓会の幅も広がっており、大変喜ばしいことと感しております。

また、井笠地域では、文化勲章を授章された小野竹喬画伯の美術館や前同窓会長の吉岡洋介氏のワコミミュージアムなどが存在し、平成二十二年の国民文化祭の開催をはじめ地域文化の牽引役として大きな役割を果たしております。

人格形成を重視し郷土愛を重んじる本校の優れた教育や地域文化等への貢献は、歴代の校長先生、教職員関係者をはじめ皆様のご尽力の賜であり衷心より感謝申し上げます。

さて、昨年の大震災並びに原発事故の惨事を考える時、科学に対する位置づけが非常に大切になっております。

私は危機管理は必要だとは思いますが、異常なまでの否定論者ではありません。資源なき国家故の宿命である次世代の人材を育成することが、今こそ教育現場に求められています。

こうした中で、物理チャレンジが、八月五日から本県閑谷学校で開催されます。

百十周年を迎える千鳥



学校長 松下晶子

千鳥会の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。私は、今春竹之内金太校長の後任として千鳥に着任いたしました。松下と申します。どうぞよろしくお願いいたします。千鳥ヶ丘から望む、町並みや遠くの海は美しく、生徒たちは、素直で純粋で非常に礼儀正しいというのが第一印象でした。自然に恵まれ、施設・設備も充実した素晴らしい環境の中で、今年も千鳥生たちは伸び伸びと学校生活を楽しんでいきます。生徒たちは、学習は勿論のこと、部活動や学校行事にも精一杯取り組み、両立が大変な時もありますが、へこたれず頑張っております。今年度の部活動加入率が、八十八%以上であることからそのことをお分かりいただけると思います。

最後に、笠岡高校同窓会のさらなる飛躍と発展を祈念し、私の御挨拶といたします。

一方、ボランティアにも多くの生徒が積極的に参加し、「千鳥ボランティア」も六年目を迎えます。昨年度は延べ四百余名が参加し、笠岡駅から下追分交差点まで広範囲にわたって清掃活動を行いました。今年六月十一日に実施しました。後輩たちも、人の役に立つ

いよいよ

ことを率先して行いたいという気持ちが高く、しっかりと実践しております。皆様千鳥におられた頃の精神を受け継いでくれているものと思います。

今年、笠岡高校創立百十周年という節目の年です。十月五日(金)に記念式典を催します。百周年記念事業は、千鳥会館の建設を始めとして、類を見ないほどの規模で盛大に行われました。百十周年は、その間の十年間をきちんと振り返って記録にとどめ、新たな十年へと力強い一歩を踏み出すための節目の年にしなければならぬと考えております。記念事業の実施にあたり、千鳥会の皆様には、物心両面にわたりまして温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。

式典の後、記念演奏会を催す予定です。演奏者には、幅広い活躍をされている本校の卒業生である、フルート奏者の吉原りえ氏と、ピアノ奏者の坂本治希氏をお願いしております。お二人のジョイントを大変楽しみにしております。生徒たちにとっても諸先輩の築き上げられた伝統を肌で感じ、千鳥生としての誇りを再認識できる意義深い一日となることでしょう。

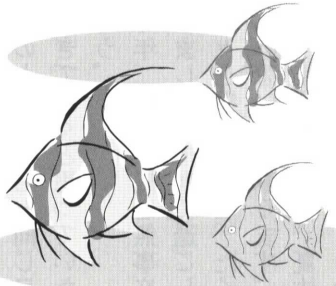
「生徒の主体的学びを引き出す教育活動を推進する」「お互いの存在価値を認め合う心を育む」を今年度の重点目標に掲げ、教職員が一丸となって、生徒の可能性を最大限伸ばし、将来の夢が実現できますよう精一杯努めてまいります。今後とも「千鳥」に温かく力強いご支援をよろしくお願いいたします。

東京支部長挨拶

昭和五十七年卒 佐藤 琢

日本のビジネスの中心である東京丸の内。太平洋戦争後、GHQに接収され、アメリカ極東軍司令部として使用された歴史ある明治安田館に隣接するMYプラザの地下会場が、本年度の同窓会東京支部総会会場となった。古山同窓会会長、松下小学校長、事務局古川道子先生、近畿支部書記石井雄大様、そして二十三年間笠岡高校で教鞭をお取り頂いた岡田潤先生を招待恩師とする五名の来賓をお迎えして、近年では最多の八十三名の会員の方の出席を賜り、盛会のうちに無事に終了する事が出来た。

振り返れば、四年前に昭和五十六年卒の方からお誘いを受け、二十年振りに同窓会へ参加した。そして、卒業後、三十年目に総会二部である懇親会の運営を中心とした幹事を務めるといふ、代々踏襲されてきた伝統の重みと責任の重大さを知る事となった。先輩の強力なバックアップを頂きながら、本年度総会までに十五名に及ぶ同級生の協力を得る事が出来たのは本当に心強く、準備途



中で核となる企画の変更を余儀なくされた時も、多くの同級生が真剣に代替案と実現へのコミット、励ましがどれ程の支えとなったろう。在笠岡の同級生も、上映した市内の風景や高校の現在の写真撮影や挿入音楽の演奏と、仲間の協力無しでは成し得なかった事を只管、感謝するのみである。

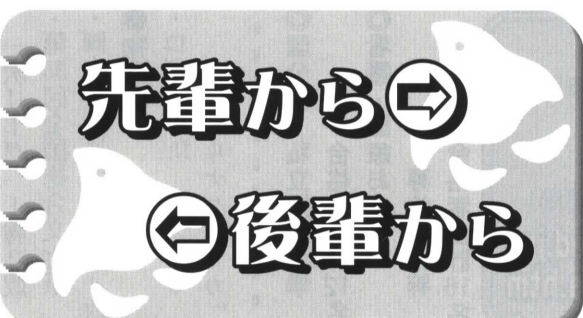
近畿支部総会報告

昭和四十五年卒 団藤 保晴

「出会い方、付き合い方」流行しているフェースブックを使われている方も結構いらっしやると思います。朝日新聞の記者のころからパソコン通信やメールマガジン、ブログでの評論活動を通じていぶん多くの方と知り合いました。ニックネームとかだけ知るネット上での付き合いが、実名で写真公開のフェースブックではすっかり変わります。実際には会っていない方でも存在がリアルに感じられます。

こういう出会い方とは対照的なのが、昔の友人に「いぶんな時間を置いて会う同窓会です。生身の人間を知っているだけに年の取り方に驚きます。昨年は近畿支部の総会の御世話をさせて頂いたできました。教員だった父も母も兄弟三人も全て笠岡高校に関係している家庭ですから、縁としか言えないようなものを感じました。以前にも亡くなった母親が母校側の担当教諭で来阪して、いっしょに近畿支部総会に一度、出席したことがありました。同期四十五卒業生は女性

側のパワーと組織力が圧倒的でした。事務作業は人海戦術でさっさとこなし、泊りがけの女子会、御茶会を何度も企画して楽しみながら乗り切りました。私の方も近畿支部総会をきっかけに年末に新聞部の後輩と食事会を持ちました。次の四十六卒業生で御世話をされる皆さん、ご苦労様です。きつと得るものがあります。



絆を太く 昭和三十四年卒 藤井 琢三

いつの間にか古希を過ぎて数えてみると卒業して五十四年になる。我々が在籍していた昭和三十年年代初頭は高度経済成長が始まったばかりで、激動の青春時代であった。卒業当時はそれほど深い思い入れはなかったがあの木造校舎での青春の三年間の友との絆は時を経ることに太く太くなっていく。今年創立百十周年を迎えるという。二万名を超える同窓生を擁して同じ学び舎で過ごした先輩後輩の絆もさらに太く太くなっていくことを願う一人だ。

※ウラ面に続きます。

※オモテ面より続き。

それにしても桜が満開のあの千鳥坂が懐かしい。校舎改築と同時に校庭の土手にあつた桜も姿を消し今では千鳥坂左手の老木二本となつて居る。「年年歳歳花相似・歳歳年年人不同」という唐の詩があるが時代の流れとはいえ複雑な思いだ。我々昭和三十四年卒は総会運営の当番年ごとに同期会を開いて久闊を叙してきたが、あと何回元気な友と今までどおり再会を喜び合えるのだろうか。

いずれにしても母校が益々発展し素晴らしい後輩たちが後に続いてくれることを願うのみである。私事ですが最後の勤務校を母校で過ごし千鳥会館建設の事務局長として募金活動に携わり、多くの同窓生の皆様のご支援を頂いて近隣の学校にも遜色のない立派な同窓会館を後輩たちに送ることが出来ました。紙上を借りまして暑く御礼申し上げます。 謝々

私の千鳥

昭和四十四年卒 伊藤 学

私は、千鳥に近い大久保で生まれた。小さい頃は、近所のおばさんたちと千鳥の校庭でよく花見をした。そこは、古城山を凌ぐ花見所であり、地域の憩いの場であつた。それに、千鳥会館前の池講堂や校舎裏の中庭、校門坂道でのラジオ体操や紙芝居、自衛隊による運動場の造成現場など、千鳥の全てが、私たち地域の子どものための良き遊び場でもあつた。幼少期の生活空間、鍛錬の場がそこにあつた。

昨年への会報に、学校の使命が掲載されていた。在学中もそうであつたのか、これとは裏腹に、私の成績はいつも低位安定だつた。これに悔いすることなく、悪友良友に囲まれ、支えられながら、自分なりの青春(三年間)を、あたりまえに過ごしたような気がする。

今も昔も時代の要求に答え、千鳥も例外なく、より飛び続けることばかり求めてきたのではなからうか。技術革新・社会の進歩など、あなたも文明の力だけが全てかのように。 『羽を休める(能)力が、鳥たちに空を飛ばせることができる。』と、言った人がいる。せめて、同窓会だけでも、羽を休める文化(雰囲気)が欲しいと、願うのは私だけでしょうか。最後に一言。私は、千鳥で大きな財産を得た。それは同級生だ。 千鳥会に栄光あれ!

同じ奇跡と違う軌跡

昭和五十四年卒 間 康治

「卒業生代表、間真之祐」卒業生を代表して、息子が壇上に立った。その光景が私を三十三年前にタイムスリップさせた。

私も当時、二四〇名を代表して卒業証書をもたらつた。成績一番ではなく、姓が「あいだ」で一番だつたのだ。それでも、この時が、私が高校三年間で唯一輝いた瞬間だつた。 その程度の三年間で、卒業後、高校生活を余り思い出さず、息子が私と同じ

高校に入学し、過ごしたクラスや出席番号も全て私と同じという奇跡が、私に改めて自分の高校時代を振り返らせてくれた。 息子も卒業して七年がたつた。息子の時代も私の時代も、そして今も、学生達は、大学受験を大目標に、日々の学生生活を送っている。私達が一期生だつた共通一次試験は、何と云つても当時の最大のイベントだつた。偏差値に振り回された三年間。備前模試というお化け試験。いつも結果に怯え卑屈だつた。

それに引換え、息子は、多くの友達と一緒に楽しもうに高校生活を堪能していた。 「こんな過ごし方もあつたんだなあ。」と自分の三年間を悔やんだ。 堂々とした姿で、賞状をもらう息子が眩しかった。ただ、卒業後、浪人をすることまで真似て欲しくはなかつたが。

「千鳥」

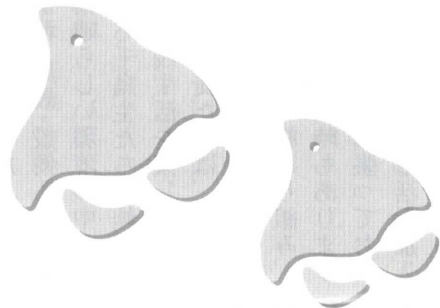
平成四年卒 島本 明

千鳥と聞いて、まず思い浮かべるのはチドリ目チドリ科の鳥、そう、千鳥足で有名なあの鳥です。 岡山県内ではハジロコチドリ、コチドリ、イカルチドリ、シロチドリ、メダイチドリ、オオメダイチドリ、オオチドリ、コバシチドリ、ムナグロ、ダイゼン、ケリ、タゲリの十二種が確認されています。

私はこれまで、オオチドリを除く十一種を県内で見ることができましたが、残念ながら、そのほとんどが

笠岡以外での確認でした。千鳥の仲間には主に干潟や砂浜などに生息しています。こうした遠浅の海は昔から干拓や埋め立ての対象にされてきました。

笠岡でも繰り返し干拓事業が行われ、千鳥の生息地は次第に狭められていきました。(ケリの様に田畑で繁殖し、次第に分布を広げている種もありますが)



古城山公園には、岡山縣十勝地という昭和十年の記念碑が建てられています。その当時、番町や笠岡湾干拓は美しい景色が広がっていた事でしょう。

そして、笠岡高校からも見えたであろう海辺には、多くの千鳥たちが舞つていたのでしようか。校章には今でも波間を飛ぶ千鳥が描かれています。

千鳥の仲間には長距離の渡りをするものもいます。笠岡高校の同窓生の皆様が千鳥の様に益々飛躍される事をお祈り申し上げます。

先生

平成十四年卒 山室 裕子 (旧姓 酒井)

平成十四年卒の八組は、毎年同窓会を開いては二十人近くが集まる、仲良しク

ラスです。そして当時の担任の先生との出会いが、今の私を支えています。

高校卒業後、教育学部に進学した私に、先生は「教員採用試験の勉強せえ。」と入学早々おっしゃいました。受験勉強から解放されたばかりです。いくら大好きな先生とは言え、素直に従うわけはありません。と

りあえず参考書を買つて、チラチラ見ては一瞬で閉じる日々が続きました。本気で勉強し始めたのは大学三年の秋。教育実習で授業の深さを学び、子どもの可能性を知つて、教師は天職だと確信しました。それから、一日十時間、勉強漬けの毎日でした。「やればできる」とは、このことです。

そもそも、なぜ私が小学校教師を目指したか。それは、その先生の「お前は先生になれ。」というぶっきらぼうなお言葉があつたからです。その言葉で私は進路を決め、同じ道を目指す友と出会つたことが励みとなり、夢のために必死になつることができました。今は、倉敷市の小学校で働いています。

先生は教えて下さいました。大事なものは「どの大学に行くか」ではなく、「その大学でどう過ごすか」だと。目の前のことだけで精一杯だつた私に、何歩も先を見据えてアドバイスをしてくださつてくれたことが、今になってやっと分かるようになりました。

先生に出会えて本当に良かったです。そして私も、いつか子どもたちにそう思ってもらえるような教師になりたいと思つて居ます。

掛替のない日々

平成二十四年卒 中山 諒也

最近、時々テレビで見かけることのある、ビートたけしが石巻の海に向かって「バカやろう」と叫ぶトヨタのCM。私は初めてこれを見たとき涙が出ました。昨年の三月十一日、日本観測史上最大の悲劇が起きました。東日本大震災。一体誰があのような地震が起きると想定できたのだろうか。多くの人はいつもと同じ日が過ぎていくと思つていたら、

今年、私は千鳥を無事卒業しました。千鳥で過ごした日々を振り返ると、たくさんの思い出が蘇ります。予習・復習・テスト。夏休みとは名ばかりで毎日あつた補習、友人達と助け合ふときは競い合い、本当によく勉強したと思つています。千鳥祭ではアイデアを持ち寄り、みんなでより良い物にしようと協力して頑張りました。休み時間に交わした何気ない会話。一緒に席を並べ弁当を食べたこと、なんでもない毎日がとてもとても楽しかつたと今更になつて思えます。卒業してあたりまえだつた毎日は二度と戻らない大切な日々だつたと気がきました。私にとつて友人と過ごした高校生活は一生の宝です。

大学生になり、新しい生活が始まりました。新しい友人、新しい環境、私は高校で学んだことを糧とし、一日一日を大切に生きていきたいと思つて居ます。

部活動報告 H23年度

●バレーボール(女子)

・選手権大会岡山県大会 ベスト16

・新人戦岡山県大会 ベスト16

●バレーボール(男子)

・県総体ベスト16

・新人大会岡山県大会

・合同チーム(笠岡・笠岡商業・矢掛)でベスト16

●サッカー

・県総体ベスト16

●ハンドボール

・県総体ベスト16

・岡山県新人大会ベスト16

●山岳部

・第51回中国大会岡山県予選 団体男子4位

・中国大会出場決定

●バドミントン(男子)

・県総体学校対抗戦ベスト16

・県秋季大会学校対抗戦 ベスト8

●バドミントン(女子)

・県総体学校対抗戦ベスト16

・県秋季大会学校対抗戦 ベスト8

●物理部

・ロボコン2011 ベスト8

・個人ダブルス 関戸・山川珠 ベスト16

●陸上競技部

・県総体男子400m大内靖之 第3位 中国大会出場

・岡山県高校新人男子やり投げ 土屋3位中国大会出場決定

・第20回中国高等学校男子やり投げ土屋46m30第9位

●美術部

・高校生美術コンクール 【風景部門】

内田 美月 金賞

高橋 舞 銀賞

●構想画部門

玄馬美沙季 銀賞

●囲碁将棋同好会

・朝日アマ岡山予選 ベスト8

・第35回全国高校囲碁選手権岡山県大会

桑田 4勝0敗 優勝

・第35回全国高校囲碁選手権大会 一次リーグ 1勝2敗

・第35回全国総合文化祭 岡山県選抜団体戦2勝4敗

●物理部

・ロボコン2011 ベスト8

「ヴォルナグラフカ」

◎国公立・私立短期大学

合格者合計12名

◎看護・医療および 専修学校等

合格者合計16名

平成24年度入試結果

◎国公立大学

北海道1名、京都2名、大阪4名、神戸2名、岡山27名、広島7名、香川13名、愛媛12名、九州2名、岡山県立12名、福山市立9名、薬学部2名

合格者合計129名

◎私立大学

早稲田1名、明治1名、法政1名、東京理科大学1名、同志社6名、立命館11名、関西8名、関西学院12名、岡山理科29名、ノートルダム清心55名

合格者合計287名

インターネットに学校情報、同窓会情報を載せております。ご利用ください。

(事務局)

http://www.kasaoka.okayama-c.ed.jp/kasaoka.htm

